

ホテルのニュースレター

日本ホテルの会 2003/5 第25号

尾瀬と屋久島の自然保護をみる

日本ホテルの会理事 常喜 豊

今回は直接ホテルに関係しなくて恐縮だが、最近私が訪れた尾瀬と屋久島の自然保護について紹介したい。

私は本務校の大学でワンダーフォーゲル部の顧問をしている。その関係で、春休みと夏休みに1回ずつ、学生たちの合宿に同行する。昨年(2002年)の8月には尾瀬を、今年(2003年)の3月には屋久島を訪れた。

尾瀬へは、上越新幹線の上毛高原駅からバスで2時間の大清水まで行き、そこから歩いて入った。尾瀬に入る主なコースは3つあって、会津側の沼山峠からわずかなアップダウンで歩いていくコース、上州沼田側の鳩待峠から標高差200mほどを下っていくコース、それに今回の大清水からのコースである。前2者に比べ、標高1,180mの大清水から標高1,762mの三平峠を経て尾瀬沼に至るこのコースは、かなり健脚向きのもので、我々はわざわざしんどい道を選んだことになる。それだけに、三平峠を越えて眼下に尾瀬沼が広がったときの感激は、またひとしおだった。

尾瀬では3泊し、この間、標高2,356mの燧ヶ岳(ひうちがだけ)に登ったり、湿原に敷かれた木道を歩いたりして、尾瀬の自然を満喫した。燧ヶ岳の頂上から見る尾瀬

沼周辺の風景は、登山の疲れをいっぺんに吹き飛ばしてくれるほど素晴らしいものだったし、木道の脇に咲くオニユリやコバギボウシなどの花にも心が洗われる気がした。しかし、それらのことよりも、さらに私が感動したのは、尾瀬の極端な不便さだ。

まず、尾瀬では風呂場での石けんやシャンプーはもちろん、歯を磨く時のハミガキ使用も禁止されている。これは、尾瀬が盆地状の高層湿原であるために水の汚れが溜まりやすく、多くの観光客が石けんやハミガキを勝手に使うと、あっという間に湿原が汚染されてしまうからだ。観光客なら数日の滞在だから何とか我慢できるが、ここに何ヶ月も滞在している人たちは気持ち悪くないのだろうか、よけいな心配をしてしまう。また、飲み物の空き缶やペットボトル、食べ物の包み紙なども、現地で買ったものの以外はすべて持ち帰るのが原則である。

さらに、尾瀬には車道が通じていないため、生活や観光に必要な物資はすべて人やヘリコプターが運ばなければならない。ダンボール箱を4~5個も背負って木道を歩いていく人をしばしば見かけたし、ヘリコプターは山小屋へ食料や飲み物を届け、代わりに大量のゴミを受け取って帰っていつ



写真1. 山小屋に物資を運んできたヘリコプター（尾瀬）

た(写真1)。ヘリコプターはまた、湿原の木道を作り直すための木材や、屎尿処理の浄化槽を作るための生コンなどの搬送にも大活躍していた。

屋久島へは、1998年に次いで2度目の渡島であった。前回、縄文杉を見ることができなかったのも、今回はぜひ訪ねたいと思っていた。私が滞在していた宮之浦の町から縄文杉まで行って帰ってくるのは1泊の行程が無難だということだったが、時間もないので少し無理をして日帰りで行くことにした。

早朝5:30にタクシーで宮之浦を発って白谷雲水峡(標高650m)まで行き、あとはひたすら歩く。途中トロッコ道を経由し、三代杉、翁杉、大王杉、夫婦杉といった名だたる屋久杉の名木を眺めながら、6時間もかかってようやく縄文杉にたどり着き、その荘厳な姿をこの目で確かめることができた(写真2)。もっとゆっくりしていたかったが、暗くなってからの山道はこわいので、痛む足を引きずって長い帰途についた。

この山行の間、100人を超える観光客に

出会ったが、彼らの中でタバコを吸っていたのがわずか2~3人だったのには驚いた。その人たちにしても吸殻をポイ捨てすることなく、携帯の吸殻入れの中にきちんとしまい込んだ。その気になってよく見ると、麓の町でも路上のゴミは少なく、世界遺産に登録された屋久島の環境を皆が大切にしていることがうかがえた。

尾瀬と屋久島で共通して感じられたことは、良い自然が残されている場所での生活は非常に不便だということ、その不便さを現地の人たちが頑固に守り、訪れる観光客もそれに協力していることであった。このことは、環境保護を考える上で実に良い経験となった。生活環境を良くするために何を変えていけばいいのかということは、自分が普段暮らしている場所にとどまっていたではなかなか見えてこない。やはりいつもとは違う場所、特に自然がよく守られている場所に行ってみなければ、というのが実感である。



写真2. 縄文杉の前で(屋久島)

今回の観察会でお世話になります群馬県東村役場の公式ホームページが公開されています。ホタルの里や箱島湧水のほか東村の自然についてのガイドマップが紹介されています。

<http://www.vill.agatsuma-azuma.gunma.jp/>

なお、今回の観察会は「東京ホテル会議」および「里川螢」の方々と合同になります。

第3回 観察会のお知らせ

これまでは、昼間ホタルの生息環境を観察してまいりましたが、やはりホタルの飛んでいるところを観察したいという要望もありまして、今回は日帰りのバスツアー研修会を企画致しました。

場所は群馬県吾妻郡東村の「箱崎ホタルの里」です。ここは、箱崎湧水を源とする鳴沢川のほとりで、6月中旬から8月上旬にかけてゲンジボタル、ヘイケボタルが自然発生しています。地元では「ホタル保護の会」がホタル保護地区を設けて活動しています。今回は昼間の現場観察の後、ホタル保護の会の方々との交流会を設けております。

集合・出発場所には、新宿と立川の二カ所をご用意しております。集合・帰着時間をご確認いただき、皆様お誘いの上事務局までお申し込み下さいますようお願い致します。

日帰りバスツアー研修会

期日 2003年6月21日(土)

場所 群馬県東村箱島ホタルの里

	1号車	2号車
集合場所	J R新宿駅西口 安田生命ビル前	J R立川駅北口広場 多摩信本店北
集合時刻	7:40	8:10
出発	8:00	8:30
休憩(10分)	9:20～(三芳PA)	9:40～(高坂SA)
合流・休憩	10:30～10:45(駒寄PA)	
到着	箱島あづま養魚場・昼食 11:45～	
ホタル発生場所見学(徒歩)	12:45～	
交流会	15:00～18:00(箱島あづま養魚場)	
夕食	18:30～19:20(箱島あづま養魚場)	
ホタル観察	19:30～20:30	
休憩	22:00～22:15(高坂SA)	
帰着	23:30(新宿駅西口)	23:00(立川駅北口)
費用	約6,000円(バス代、高速料、昼食、夕食代等)	

人数が多いと費用は若干安くなります。参加ご希望の方はハガキまたはFAXにて事務局宛にお申込み下さい。

第4回談話会

2月22日(土), 昭和女子大学において第4回談話会が開催されました。講師は八王子市在住で「水と緑と蛍の会」の平尾守満さんで、「ホタルと自然と人間と」という演題でご講演頂きました。

ご本人のホタルとの関わりから始まり, 小学校でのビオトープ造り, 椿山荘とのやり取り, 八王子周辺での活動や水田造りなどの話題がありました。また, 南極やコスタリカ, ギアナ高地など世界各地での自然と人間の関わり方や, 地球規模での自然環境の変化についての影像が紹介されました。そして最後に, 全国にたくさんあるホタルの会を取りまとめるような組織の必要性を訴えられました。

事務局からのお願い

事務局要員を募集しております。ニュースレターの編集作業, 郵便物の発送, ホームページ作成, その他の事務仕事など何でも構いませんので, ご協力頂ける方は事務局までご連絡をお願い申し上げます。

ホタルのニュースレター 第25号 平成15年5月25日発行



編集 日本ホタルの会事務局
発行 矢島 稔
156-0041 東京都世田谷区大原2-17-6
ステーションプラザ代田橋410
(株)オーグラム内 日本ホタルの会事務局
TEL & FAX: 03-3328-7379
e-mail: KYW07337@nifty.ne.jp

印刷 システム印刷株式会社
191-0031 東京都日野市高幡454
TEL: 042-591-1411 FAX: 042-591-7701
